

修先生を紹介します

G 1 3 任鎬辰

目次

1. なぜ修先生にしたのか
 - 1-1. インタビューする人の紹介
 - 1-2. その人の魅力
 - 1-3. その人とのエピソード
 - 1-4. その人は自分にとってどんな人なのか
2. インタビュー結果
3. インタビューを通じて
4. この授業を振り返ってみて

1. なぜ修先生にしたのか
 - 1-1. インタビューする人の紹介

私がインタビューしたい人は今秋田市和洋女子高校の高橋修先生です。修先生とは知り合ったきっかけは今年7月、和洋高校での韓国語の授業のボランティアの仕事を友人から譲ってもらって始めまして、そこで韓国語の授業の指導を担当していらっしゃっていった方が修先生だったことでした。

1-2. 修先生の魅力

修先生とは今年秋田に来て5月頃に友人の紹介で出会いました。修先生に初めて出会った時、考えたより厳しそうな顔をしてかなり緊張していたが、でも実際に話し合ってみたら物やわらかで、優しい人だったのでほっとしたことを今も覚えています。やはり女子高の先生を長くやって来た先生ならではの優しさを感じられました。先生と会うのは週一回だけですが、会うといつも健康状態とか秋田での生活は楽しいかなど、気使ってくれます。修先生は韓国が好きで韓国に何回も旅行や仕事で行ってきたそうです。韓国と韓国人にとっても思いやりがあっていつも有難いなと思っています。また、韓国の歴史から伝統文化まで詳しく知っているので自分でも今まで知らなかった韓国のことについて知ることができるし、興味がなくて忘れていた韓国のことを甦ることが出来てとても勉強になります。

1-3. 修先生のエピソード

私は自分の前にこのボランティアをやっていた友人から譲ってもらって7月から修先生と一緒に3年生の3人に韓国語を教えています。自分が韓国を教えるというか自分の先生のところ行って日本語の勉強にもなるし、日本の高校生たちの交流している感じで週一回が少なく感じるくらい楽しいです。ある日は、授業の終わった後コーヒータイムに誘われて一緒にタバコを吸いながら韓国の料理とかスポットとか私の秋田での生活などについていろいろ話し合ったことがありまして、先生と色々な話ができてもっと仲良くなることができましたし、先生の雑談も結構おもしろいなと思いました。9月末には和洋高校の文化祭がありました。僕は先生から学校に来て韓国料理を作って欲しいと言われて友達3人と共に学校に行行ってヂヂミの試食会を行いました。日本人の学生たちや来客には見慣れてない他国の料理だからか、ヂヂミの人気はすごく作るのが早いかなくなるくらいでした。何十人分の料理を作るのは結構大変な作業でしたが、めったにない日本の高校生と交流できるチャンスだったので、楽しみながらやりました。

そして、自分たちが作った料理を「おいしいです」とみんなが言ってくれて嬉しかったし、おいしく食べている学生たちの姿を見てお母さんの気持ちになりました。また、お昼を先生としながらいろいろ話ができ、楽しい一日になりました。この前の秋大祭の時、私は今所属しているコリアサークルの屋台で韓国料理を作ったんですが、先生は忙しい中、私を応援しに来てくださってちょっと感動しました。先生は私が作ったヂヂミを食べた後、勘定する時、御釣は要らないと格好よさを見せてくれて皆喜んでいたことが印象に残っています。この前は先生がお米をくれると言いましてわざわざ留学生会館まで来てもらって先生の実家で収穫した新米をたくさんもらったこともあるなど、いつも修先生にはお世話になっています。

1-4. 修先生は自分にとってどんな人なのか

私は今交換留学で秋田に来ていますが、国では大学で日本語教育学科の4年生で高校の日本語先生を目指している人です。学生たちに何かを教えている先生の姿を見て、自分の教師像である優しく存在感がある先生に近い先生だと思いました。また、やはり先生の経歴が長いので当然だと思われませんが、慌てないでゆっくり聞き取りやすく話し方も気に入っていますし、先生が話していることをよく聞くと本当に知識が豊富な方だということが分かりますので修先生みたいな先生になったらいいなと思っています。ですから、今度のインタビューを通じて、修先生に先生になるために必要な資格は何があるか、何をどう準備すればいいのか、そして修先生が今まで教育者として歩んで来た間で得た人生経験などについて聞いて自分に有益な情報を得たいなと思っています。そして、このインタビューでお互いの知らないところを知り合ってもっと親しくなれることを期待しています。

2. インタビュー結果

- 場所：和洋女子高校 図書館
- 時間：2008. 12. 10. 午前10:00~11:00

① Q：先生は今年でおいくつですか？先生になりまして今年は何年目ですか。

A：年齢は、1958年生まれで50歳で、教師になって、今年がちょうど25年目です。

コメント：自分は先生の年齢を45歳前後ではないかなと思っていましたが、それより年が多かったのでちょっとびっくりしました。教員経歴も自分が思っていたのより長かったです。先生の言葉使いや柔軟な指導がやはり長い経験があったこそだなと思いました。

② Q：先生の今の住んでいらっしゃる処と家族関係を教えてください。

A：秋田県大仙^{きょうわ}協和の協和スキー場や唐^{からまつ}松温泉の近くに住んでいます。家族は、両親、妻、息子が二人で、長男が22歳、次男が21歳、二人とも大学生です。

コメント：先生の家までは秋田市内から車で1時間くらいもかかって出勤と退勤の時大変だろうなと思いました。そして、スキー場と温泉が家の近くにあつていいなと思ったし、一度行ってみたいなと思いました。先生の息子さんは二人とも今県外で大学生活をしていて、普段そばにいないし、たまにしか会ってないので、先生もきっと寂しいだろうなと思いました。

③ Q：なぜ、韓国のことに興味を持つようになったか？

A：1987年に、初めて韓国を旅行したのがきっかけです。

コメント：1980年代後半に韓国のニュースが日本にたくさん入ってきて先生は韓国という国に関心を持つようになり一人で韓国に旅行に行ったそうです。その時、出会った韓国の人たちの親切さや伝統文化などが印象的で興味を持つようになったとおっしゃいました。

先生は韓国人には日本人にない、日本では感じられない温かさが感じられて好きだとおっしゃいました。

④ Q：韓国のどんなところが好きか？韓国語や韓国の歴史は自分で調べて勉強したのか？

A：韓国と関わりを持つようになってから、たくさんの知り合いや友人ができました。その人たちとの付き合いを通して思った、韓国人の好きなところは、まず、何よりも、礼儀正しいということです。特に若い人たちの礼儀正しさにはとても好感を持っています。また、韓国人は一般的に、自分の気持ちをはっきり主張します。そして、感情表現が直接的で、表現の仕方が非常に豊富なことです。初めの頃は戸惑うこともありましたが、今では、そのことが韓国人の良さだと思うし、私は好きです。もう一つは、韓国では国家レベルで、地域社会や家庭の中で、個人的にも、歴史的なことや伝統的な習慣が高く評価され、それが大切にされていることです。（愛国心だとかナショナリズムとは関係なく）みんなが、国や仲間、文化を慈しむ心を強く持っていると思います。（少なくとも日本人よりは。）このような韓国人の良いところは、日本人も学ぶべきだと思います。もちろん、キムチや焼肉などの韓国の食べ物やドラマ、伝統音楽も大好きです。韓国語はできません。学校の授業で生徒たちと一緒に勉強している程度で、ハングルも書けません。ただ、漢字を韓国語で読むのは、とてもおもしろい。韓国の勉強は、自分で本を読み、韓国人と話をし、韓国に行って勉強しています。いわゆる独学です。

コメント：今の韓国の若者たちも個人中心の考えを持っている人が多くて周りの人をあまり気にしないと思います。でもこれはあくまでも自分の考えで、先生が自分の経験からそう思っていることも先生なりの事実だし、先生のように思っている人が多ければそうかもしれないので否定できませんでした。ところが、日本に来て韓国では見たこともない無差別殺人事件がたくさん起こっていて、本当にびっくりしました。自分は日本に来るまで日本が世界で最も安全な国だと思っていましたが、今の日本の状況を見てまだ韓国のほうが安心して生活できる国だと思いました。韓国人が日本人より自分の気持ちをはっきり主張するという意見には同感です。日本に来て何人か日本人の友たちができましたが、自分たちの気持ちをはっきり言わないし、目の前にいる時とそうじゃないときの行動が違って困ったことが何回もありました。自分の感情を素直に表す韓国人としては嘘にしか見えないことだったので、すごく文化のギャップを感じました。

⑤ Q：教師になろうと思ったきっかけは？

A：父親が教師だったことも影響があるのかも知れませんね。自分が中学生や高校生の時に、すばらしい人格を持った先生に教えていただいたからだと思う。また、自分が好きな勉強ができる仕事だから。

コメント：私は今向こうの大学で日本語教育を専攻していて、一応高校の日本語教師を目指していますが、はじめに日本語の教師になろうと思ってこの学科に入ったわけではなかったし、今も教員試験に合格して先生になる自信もあまり持っていないので、先生の話聞いて少し反省しました。

⑥ Q : 今の担当教科、大学の専攻は？

A : 地理と世界史を教えています。大学での専攻は地理学。

コメント : 高校の時、僕は地理と歴史がとても苦手で大嫌い教科目だったので、先生はすごいなあと思いました。そして、自分が学生時代に好きだったことを今仕事としてやっていらっしゃる先生がうらやましく感じられます。高校の時、僕の夢は獣医師になることでした。今もその時の夢を諦めたことを少し後会していますが、また最初からやり直す勇気もないし、今やっている日本語の勉強が好きだからそれに満足しています。

⑦ Q : 教師になるために今僕が、どんな準備、心がけ、勉強が必要だと思っ
ていらっしゃいますか？教師になるための資質は？

A : ①「自分は、絶対に教師になる」という強い信念を持つこと。

②専攻分野の研究をしっかりやること。

③どんなことでもいいので、とにかく、多くの経験を積むこと。

④韓国の歴史と日韓関係の歴史をしっかり勉強すること。

⑤日本語をもっと大きな声で話すこと。(まちがっていても、変でもいいからもっと大きな声で話すようにしてほしい。)

⑥教師になるために必要な資質は、「健康的で、元気が良いこと。」「研究に熱心なこと。」「若い人たちを理解しようとする心を持つこと。」「強い信念を持つこと。」

コメント : 自分は今まで「自分は、絶対に教師になる」と思ったことがなかったので、今からでもはっきり信念を持たないとだめだと思いました。自分でもいつもちゃんと勉強しないとだめだと思っ
てはいますが、またすっかり忘れて遊んでばかりなので、これから卒業だし、今からでもしっかりしな
きゃと改めて思いました。そして昔から周りの人たちに声が小さいと結構言われていて、これから就職する
ためには消極的自分の性格を直さなければだめだと思いました。

⑧ Q : 今までの教員人生で、印象に残っているエピソードは？

A : 2002年1月に、生徒5人を連れて韓国にいったこと。15年ぶりに行ってみて、韓国の発展ぶりに驚きました。韓国の高校生と日本の高校生が、すぐに仲良くなってくれたことが、とてもうれしかった。その年の秋には韓国から校長先生と12人の韓国の生徒が秋田に来てくれて、とても感激しました。

コメント : 僕のインタビューだからこんなコメントをしてくれたかもしれませんが、教員人生の中で一番印象に残っている経験が韓国での思い出だとは意外でした。よくわかりませんが、多分外国に行ったら人はよく不安になったりするし、自分と違う国の人を警戒するがちなもので、その時に出会った人たちが自分に表なくしてくれると有難いし、距離感がなくなるものです。これは僕が日本に来て日本に来て経験したので十分わかります。僕も今まで人生の中で一番のエピソードは何ですかと言われたら、日本に2回留学したことだと言うでしょう。

⑨ Q : 理想の教師像は？

A : 「優しさ」と「厳しさ」が両立している教師。(片方だけではダメ)

コメント : 自分が今まで教われた先生のタイプを「冗談をよく言っておもしろい反面、怖い時はすごく怖くて時には体罰もする先生」と「キャラクターがじみで真面目なことしか言わなくておもしろくないけれども優しくよく相談によく乗ってくれてとても勉強になる先生」大きく

二つに分けることができますと言ったのですが、その時先生は自分はどちらかと言えば後者だとおっしゃったんですが、それには僕も同感しました。

⑩ Q：今年で26歳の僕はもうすぐ大学を卒業するのですが、今にあたって、先生の経験上からアドバイスを一言お願いします。

A：20代の時に、勉強と経験をたくさんしてください。なぜなら、20代は体力、知力、吸収力が一番強い年齢だから。20代の時に蓄えたことが、その後に生きる60年間の基礎になるから。秋田で勉強したこと、経験したことを、将来、韓国の教壇に立ったときに、韓国の若い人たちに伝えてください。そして、日本と韓国は協力して、アジアと世界をリードして行かなければならない二つの国であることを教えてください。

コメント：先生の教えを心に刻みつけて先生になれるように頑張っていきたいと思っています。

3. インタビューに通じて

今回のインタビューで今まで知らなかった先生のことについてたくさん知ることができたし、先生からたくさんのアドバイスをもらってとても良かったと思っています。人をインタビューするのは人生初めてだったので、どういう形で進めばいいか分からなくてかなり緊張しました。そして、インタビューの内容では先生の私生活に関する質問もあったので、先生に失礼することになるのではないかと心配しましたが、実際にインタビューすると先生は迷いなく答えてくださってほっとしながらインタビューすることができました。このインタビューの最初の目標は先生に必要な資格やそのための準備などを修先生の人生経験から参考することでした。自分が勝手に作ったインタビューの項目について先生はとても分かりやすく、優しく説明してくれました。そして、先生の価値観や教師像は自分が今まで持っていたのと似ているところが多かったのでびっくりしました。しかし、自分が今まで気付いていなかった大事なところを教えてもらうことができとてもいい時間になりました。先生と知り合って5か月がたちましたが、今まで先生のことについて知っていたのがほとんどなかったので、自分が本当に馬鹿みたいでした。今回のインタビューに通じて、人と人の関係をうまく持つていくには相手のことに興味をもって、お互いにたくさん話して、相手のことについて知ることがとても大事だと改めて思うようになりました。

4. この授業を振り返ってみて

日本事情の初めての授業の時、授業の内容についての説明を聞いて厳しい授業だと感じられてやるきがありませんでした。自分は授業を通じて日本の学生たちをもっと交流できてたくさんの友達が作れる授業を望んでいたからです。でも、授業が進むと自分の課題を作るために班の人たちにアドバイスをもらったり、自分がアドバイスをしてあげたりする間にいろんな話ができ、自分のやる気さえあれば十分交流できる授業だということがわかりました。最初のアイデアメモからインタビュー結果を作成するまでに班のメンバーたちや先生にたくさんのアドバイスをもらうことができました。この授業を通じて自分が興味を持っている人について詳しく、そして正しく知ることは大変大事であることが改めてわかりました。この授業が終わると私の日本での留学生活も終わりますが、国に帰ってもここで出会った大事な人たちを忘れないで生きたいし、自分の家族や友たちともたくさん話すことによってお互いのことを理解してもっと仲良くなろうと思っています。

インタビューを通して

工学資源学部 環境応用化学科 1 年次

武田 晴輝

- 目次
- 1 どうして O さんなのか?
 - 1-1 気さくな O さん
 - 1-2 子供っぽさと大人っぽさを併せ持った O さん
 - 1-3 英語が得意な O さん
 - 2 インタビュー話したこと
 - 3 インタビューで感じたこと
 - 4 日本事情 II を振り返って

1 どうして O さんなのか？

なぜ僕が O さんにインタビューしたいと思ったかという、O さんは僕にとって特別な女性であり、一番魅力的な人だからです。

1-1 気さくな O さん

彼女のどんなところが魅力かという、一つに彼女といるととても楽しいというところでは。

約半年前にバイト先で出会いました。出会って間もないころにバイト先から彼女の大学まで送ってあげました。そしたら彼女は大学の図書館を見せてあげると、ぼくを誘ってくれました。彼女はすごく楽しそうに大学の図書館を紹介してくれました。実際のところ、僕は女の子が苦手な女の子と二人きりでいるといつも緊張してしまい、なるべく二人きりにならないようにしていました。しかし彼女といるときはなぜか全く緊張せず、すごく楽しく会話も弾みました。そしてこの人とまたふたりで話をしたいなと思いました。この感情もこの人が初めてでした。

そしてまた話したいと思ったので、その次の日も送ってあげました。そしたらバイクも 2 回目となると慣れてきたのか、「ドライブに行こう。」と誘われたので空港までドライブ行きました。空港に着いて話をしました。彼女は機械に全く興味がない人なのに、僕がバイクの部品を指して説明すると彼女はすごく真剣に聞いてくれました。それを見て僕は「この人はなんていい子なんだ。」と、とても感心しました。そんな感じで女の子と二人きりでは全然会話ができなかった僕がその時は夜通し彼女と話をしていました。

1-2 子供っぽさと大人っぽさを併せ持った O さん

彼女の次の魅力は、子供っぽいところと大人っぽいところを併せ持った人である。というところでは。

彼女は普通の仕草やちょっとした考えはすごく子供っぽいのですが時折大人っぽい考えを持つ時があります。良い例えはあまり浮かびませんが、恋愛に傾倒せず、勉強と恋愛を両立させるとこや、株をやりたいと言い出したり、僕はあまり理解できなかったのでよく覚えていませんが外国との貿易のなんかをやれば絶対儲かる。と言ったりなどします。それなのに最近まで一人で電車に乗るのが怖かったり、動物園や水族館に行ってすごく楽しくなると子供みたいにはしゃいだりします。そんなところも魅力の一つです。

1-3 英語が得意な O さん

あと彼女はとても英語が得意です。彼女の専攻は英語ですべての授業が英語だそうです。それこそ体育からなにもだそうです。そしてその大学の学生は四年間のうちに一回は一年間の留学をしなければいけないそうです。しかし、その大学の学生には一回留学を経験してきた学生が多くいてレベルが高いらしく、とても苦労してるみたいです。そんな高レベルな環境の中でも、苦労しつつもなんとかやっつけている彼女の英語力にはすごく感激しています。またたまたま英語力のかけらもない僕に英語を教えてください。そのおかげで、今回の英語のテストはなんとかうまくいき、少しは英語力のかけらぐらいはできたかなと、思っています。彼女には感謝の気持ちでいっぱいです。そんな彼女の英語力のもとても魅力的です。

2 インタビューで話したこと

日時：12月14日 PM11:00～12:00

場所：ガスト

(彼女は小うどんをたべ、ぼくは鶏肉を食べながら)

自分「O は話が聞ける子だと思うけど自分ではどう思う？」

彼女「中学までスクールカウンセラーになりたかったから人の話はよく聞けるよ。」

自分「その話初めて聞いたわ。けど話すのも好きだね。」

彼女「うん。話すほうが好き！」(嬉しそうな顔をして即答でした。)

自分「だよね。」

彼女「けどね、話があっちこっち飛んじゃうのは反省してる。」

自分「たしかに・・・」

彼女「晴輝は？」

自分「俺はどっちかと言えば聞くほうが好きだね。楽し、楽しそうに話してるのを見てるのが好きだから。」

(彼女は嬉しそうな顔をした。)

自分「けど俺が話してるときに話を変えられるのはやだ。」

彼女「ごめんなさい。晴輝が話してることから思いついたこと話したくなっちゃうん。」

自分「なるほどね。」

彼女「なおします。」

(メールでもよく話を急に変えられることがあってちょっと嫌だったけど直してくれるとうれしいです。あと聞くことより話すことのほうが断然好きなんだと思う。)

自分「子供っぽさと大人っぽさについてはどう思う？」

彼女「よくわかんないけど自分でもそう思う。おやすみを言い友達部屋にいったり、雷が鳴ったらクマを持って友達部屋に逃げ込んだりするのは子供っぽいと思うけど、一人でいても憂鬱にならなかつたり、一人で飛行機乗れるし、一人で振込できたりするところは大人っぽいと思う。」

(この彼女の大人っぽさの基準自体が子供っぽいと思った。)

自分「その考えがもう子供っぽいよ。そうじゃなくて、Oは仕草とか行動が子供っぽくて、あとちょっとしたどうでもいいような考えとか、で、重要な考えというかけじめのあることみたいのが大人っぽいんだとおもうよ。」

彼女「ん～。思考の深さってこと？」

自分「そう。それ！」

彼女「それは本をいっぱい読んでたからかな。」

(子供っぽさや大人っぽさには自分ではよくわかってないみたいだった。)

自分「俺の嫌いなところは？」

彼女「ん～。」(結構悩んでいた。)
「うんと。グップするところ、毛玉のついたスタジャンを着るとこ(ぼくは着ていたスタジャンを脱ぎました。)、小食なところ、トイレが近い・・・。」

自分「そうゆうのじゃなくてもっと性格的なところで！」

彼女「え～。」(また悩んでいた。)
「ない。」

自分「ないの？」

彼女「ない。だってだいたいそんなにあったら付き合えないじゃん。」

自分「まあ確かに・・・。」

彼女「あ！あった。」

自分「なに？」

彼女「興味があるものに熱中しすぎて周りが見えていないのであろうと思われるところ。」

{エピソード: 僕と彼女と僕の友達、彼女の友達でスノーボーを見に行ったとき、僕は他の人をほったらかしにしてなにも告げず消えた}

自分「あー！あれはあえてだよ。いつも一緒に買い物行くとOが見たいところに勝手に行ってそれに俺が何も言わないでついて来るだろ？」

彼女「うん。」

自分「だから自分の見たいのを見に来た時ぐらいは自分の行きたいところに行って、それに〇がついて来るかなと思ったんだよ。」

彼女「けど友達を二人きりにして気まずくさせたらいけないと思って仲を取り持ちたかったん。」

自分「そか。」

(友達と遊んでいる彼女はとても楽しそうで子供っぽく見えた。しかし、ただ無邪気に楽しんでいるのではなく、考えていることはしっかりしていると思った。)

3 インタビューで感じたこと

インタビューを通して感じたことは、今まで彼女は基本的には子供っぽくてその中にたまに大人っぽさがあるのだと思っていました。しかしそれは逆で、考えていることは大人っぽく、その行動が子供っぽいのだと感じました。つまりは子供っぽい行動の裏にはしっかりとした考えがあり、ただ無邪気に楽しんでいるわけではないということでした。

ちゃんとした考えを持っていて、それを行動に移したとき子供っぽくなることで、その場をうまく和ませることができていると思います。僕はきっと彼女と居ることで彼女にそうやって和まされ、癒されているから一緒にいたいと思い、彼女を魅力に感じるのだと思いました。

また、僕の性格的などで嫌いなところを聞いたとき、一応ありましたが実質的にはなかったのですね。しかし、絶対なにかはあるはずなのでこれから嫌いなところを聞けたらいいなと思います。

インタビュー全体的には、やはり彼女はしっかりとした考えを持っていて、話し上手なので、聞いたことにすぐ答えてくれたのでとてもインタビューしやすく、いいものになりました。

4 日本事情Ⅱを振り返って

日本事情Ⅱを振り返って最初は「6400字のレポートを書かなきゃいけない」ということを聞かされて、そんなレポート書ける自信がありませんでした。しかし、いざ書き始めてみると魅力的な人について書くことに楽しさを感じました。また、自分でも改めて「相手の魅力とはなんなのか。」「彼女はどんな人なのか。」ということを考えさせられて、良い機会になりました。

そしてインタビューをしてみると自分の思っていた彼女の性格と変わらないところもあったが、違ったところもあって、また彼女について再発見できました。この発見はこの授業だったからこそ発見できたと思います。

また、毎週の授業ではグループのみんなのレポートについてディスカッションを

しましたが、みんなに自分の魅力的な人を紹介してコメントをしてもらうのはなかなか楽しかったです。さらに普段話せないような医学部の人や、留学生の人とたくさん話せてよかったです。